文芸

短編　息子（3）

十市梨夫

昨夜沢田と別れて家路へ急ぎながら、道子の心は妙に重たく沈んでいた。何も憂欝になる理由はないはずなのに、相手から受けた圧迫感は執ようにその余韻を遺していた。沢田はこれから度々つき合ってほしいといったが、もし道子さえその気になれば、結婚へのみちがそこから展けてくるはずである。道子は内心では断固として男の申しいれを拒否しながら、口ではあいまいな答えで濁さなければならない自分の立場に肚が立った。そして浮かぬ気持で帰ってみると兄の話が待っていた。兄が辞表をだしたことを聞かされると彼女の気持は一層重たく沈んでいったのである。そして昨夜は珍らしく寝苦しい夜を過ごしたが、朝になってみると沢田のことはもう念頭になかった。あるのは兄に託された言葉だけである。そして道子はそのように行動した。

それなのにこの人はわたしから何か不純なものを嗅ぎとろうとしているだろうか。道子はどうにもやり切れない気がした。これは説明のしようのない気持である。忽ち道子の涙線ははじけようとした。すると男がいった。

「ぼくは昨日辞表をだしたので君にもお別れをいおうと思って電話したんだが君は退社した後だし仕方なくあそこまで帰ってきたところだった。辞表をだしてみるとたんに君達とも縁遠くなったような気がして自分が惨めですなおに声もかけられなかったんだ」男の声は沈んでいた。

「そんなことはないわ、そんなに自分を卑下しなくてもいいのよ」あの時呼びとめてくれさえしたら、昨夜のようないやなおもいもこんな誤解もうけずにすんだであろうにとつづけるつもりだった。だがその時三機編隊の練習機が爆音を轟かせながら、かれらの頭上で南へゆるく迂回して、海岸線の方へ消えていった。二人はなんとはなしにその青い空の高みを追っていた。

「兄はけさ急用で松山へ行ったけれど、あなたが辞職を思い止どまるようにおまえからもよく話してほしいといったのよ」と道子は改まった口調でいった。

「課長にそんなに惜んで頂いてぼくは何よりもありがたいと思っている。田圃だけの仕事ならぼくもとうに百姓なんか諦めているけれど、父が生涯をかけて育てあげた果樹園を荒らしたり、人手に渡したりすることはどうしてもできないから」

道子はそういう男の眼を見た。この人は会社を辞めると決心したことでわたしからも離れてゆこうとしているにちがいない。この人は野良へかえる。わたしは都会の女だ。ふいに胸の奥を刺すような痛みがはしった。

「会社を造る。工場を建てる。果樹園を作る。どれも立派な男の仕事だわね人と人が犇めき合い、自分の利害ばかり考えてみんなが卑屈になる街の職場よりか、果樹園にいれば人にわずらわされずにすむし、太陽や新鮮な空気もあって、それに小鳥の歌だって聞かれるから、真実に生きるためにはその方がずっといいかも知れないわね」いってしまって道子ははっとした。これではまるでミイラ取りがミイラになりかねないではないか。こんなはずではなかった。兄に託された言葉もそこにはない。それなのに彼女の意思を無視して勝手な言葉がとびだしてきたのは、一時的にこの青年に同情したためのおとめの感傷によるものだろうか。道子がそう思った時、

「しかし野良へ帰ると孤独になる」と男が呟くようにいった。

「孤独にね」これも呟くように受けたが、先程胸にきた痛みはこのことだったと道子は思い当った。この頃机に向かっている時この人もやっぱり今頃はペンを走らせているにちがいないと思うことで慰められてきた。それがもうなくなるかと思うといいようもない淋しさがきたのだ。

「この六年間、とにかくぼくは人と人との間で毎日を過ごしてきたが、これから畑へこもるとほんとうのひとりぼっちになる」

多勢の人の中でだって孤独はあるとわたしは思うのよ。この世の中にはほんとうに理解し合い、愛し合える人がいたならたといひとりでいても孤独の淋しさはないのだと道子はいおうとした。すると男が先きに口を開いた。

「いっそぼくと結婚してくれませんか」

「結婚のこと─」道子は言葉に詰った。結婚という言葉を聞くと、さすがにすっかりうろたえて頬がほてってきた。きょうここでこんな風に求婚されようとは思いもかけないことであった。眼をあげるといつの間に立上ったのかきついくらいの男の眼が彼女を見下していた。道子はその眼を眩しく受けとめた。

（つづく）

オリンピックによせて

市スポーツ振興審議会長　沢村武一

大会第六日目は三段跳競技が行なわれた、これに出場したのは、田島直人、原田正夫、大島謙吉の三選手であった。

この競技に対する国民の期待は大きく、それにこの競技は、アムステルダムの大会で織田幹雄選手が優勝、ロスアンゼルスの大会では南部忠平選手が優勝、大島選手が三位を占めているので跳躍日本の栄誉にかけて、三度の連勝は死守しなければならない立場におかれていたからである。

田島選手はこの日極めて好調で世界の強豪を制し十六米という世界並にオリンピック新記録を作って、堂々優勝、三連続の世界征覇がなった。原田選手もまた十五米六十六を跳んで二位となり、表彰台上中央に田島選手が、右に原田選手が立ち、厳そかに国歌吹奏裏に大日章旗二本が澄み渡ったベルリンの空高くひるがえた、スタンドの応援席にいた日本人は、期せずして立ち上った。私しも胸をふくらせ、声え高く君ケ代を合唱したこの感激はひとしを強く、その光景は今なお浮かんで来る。なお、大島選手がファウルしなかったなら三本の国旗をあげていたのであるが、それでも、大島選手は六位となった。

一方トラックでは、五千米競技の決勝が行なわれ、これに出場した村社選手は、北欧フィンランドなどの強豪に伍し、孤軍奮闘し四着の成績を収めた、日章旗をあげることは出来なかったが、三着（瑞典のヨンソン）との差は僅かに一米半であった。

大会第八日目は、陸上競技の最後を飾る待望のマラソン競技が、ベルリンのマラソンコースで行なわれた。日本からは、孫（そん）塩飽、南の三選手が出場した。

午後五時三十分頃競技場に通ずるマラソン門に第一に入って来たのは孫選手であった、足元に少しの狂もなく最後のトラック一週してゴールインした、所要時間は二時間二十九分十九秒でオリンピック新記録、二分遅れて英国のハーパー選手が入ってきた、それより一〇〇米遅れて三着にわが南選手がゴールインした。表彰台上に孫選手と南選手が立ち、するするとのぼる日章旗に強い感激に打たれた。

オリンピック大会の陸上競技は、大会の花といわれるこのマラソン競技をもって終わりを告げた。

オリンピック主競技場では八月一日の開会式後、二日から九日までの八日間、陸上競技が行なわれた大競技場は、毎日超満員であった。しかし出入りは少しも混雑せず観衆の立ち去った競技場は、実にきれいで、紙屑など少しも見当らなかった。この八日間の陸上競技（男子）の成績は、一位米国（一五五点）二位フィンランド（六九点）三位ドイツ（五七点）についでわが日本は四位（四二点）で、かつてない好成績をあげた。

田園都市とは、よくいったもの。後免地区の市街地を少し離れると〝しじま〟の一語に尽きる風景がある。冬ざれの田の面が静か、朝モヤのたゆとう山波もまた。ワラグロ（中央）だけがこのしじまにアクセントを付けている。＝稲吉で

高級御誂服とレデイメード替ズボン
西田洋服店
後免中町（相銀前）電話3063
有線　155―13

日本人に1番多い病気は歯と歯肉の病気です。あなたもムシ歯ができてはいませんか。年に2回は歯の検査を受けましょう。

市内の歯科診療所の診療時間

冬期	午前8時半	午後5時半
夏期	午前8時	午後6時

急患以外の方はなるべく診療時間内にご来院下さい。保険証をお忘れなく

高知県歯科医師会南国市支部会

東工高校開校記念俳句大会

入選
受験日の吾子に無言で笑みかける　比江　岩原　貞美

入選
カンランの己の身縮めて冬を巻く　城陵　前田　紫月

入選　北村涼々子推薦
勝鶏の血塗りし嘴を人に向け　前浜　森岡　美保

入選　池禎章推薦
吾子帰る寒しベル音身近にす　比江　高松　要

入選　公文東梨推薦
春田にて捺印許され包受く　稲生　前田　照子

東工業開校蝌蚪は日々育つ　大埇　西岡双島子
冬耕のおみなひとりに陽あつまる　香北町　前田　欣一
牡丹雪背き胸見せ鳩還る　高知　三宮たか志
春塵拭く眼鏡も顔の一部分　後免町　西岡案山子
寒鯉のきらりと光り藻にかくる　電々公社　小島　澪史
詩にならず吾がぬけがらを雪に捨つ　稲生　浜田　豊子
樵親子樹氷の山に神と住む　久礼田　岡崎ひと志
学問によき環境や初蛙　公文　東梨
雪が降り積りこの世に誰もいない　北村涼々子
終着駅記憶のなかの枯れ銀杏　池　禎章

嘱目吟互選句

初蝶の光りが町の空を占む　香北町　前田　欣一
まだ見へぬ児なれど窓へ珍の雪　大埇　西岡双島子
菜の花や電車なめらかに視野よぎる　福船　大岳　新草
春田来し雛にひびける新校舎　浜改田　中村　祭生
トマト熟る露のハウスを吹き上げて　前の浜　竹島いわほ
うららかや長々続く無がい貨車　住吉野　武市　亮一
眼鏡拭きしとき棠の花に瞳を落す　城陵　前田　紫月

綜合堰と茂久川（8）

後免と農川水

南海虚子

これがため小溝も斜走曲流行違いなど錯綜した上に通路もアチコチと曲りぬけるなど、荒原当時の踏分道が今に遺されたままで、要町の際を縫うたり斜走したり、電車軌道を挟んで南にまでも見え隠れしている。にも拘らず、昨今諸建築物がこれに沿いながら家の方向も乱雑に建ち並び、耕地も水路も家も小道も雑然と相ひしめいている。軌道を挟んで南面に目を注ぐなら、今後一体どこえ往こうというのか案じられる。これというのも、町の背後に茂久川の奔流が通じたにも拘らず、舟入の遮断によってその水は一滴も迎え得なかったので、新川水利依存の無理押となったからだ。この末期的な怪状態から発展的な姿勢に立直るためには、現在の構造を計画的に整形するのが基本事業となろう。それには水利構造の改善が先鞭となる。では以下水利改造の試案に移ろう。

■新川の町内カーブ移動が重要課題だと想はれる。前に述べたように、舟入は松本で茂久川系の新川規模に整理し、宇田までひいてきて現新川に連絡するようにいったが、改造新川の別案として、後述する後免幹流（東崎での茂久川分水）から農業高校の東側を導下して新川を形成せしめるのも考えられるそのいずれにしろ、改装新川は河床を五〇ー三〇センチ位上げて上下の匀配を整え、流末に近づけば〇センチとなる。さて東町裏の新川カーブの廃止であるが、この東にまげた新川は廃川となし現在の南下分水路を追うて高姿勢の新川道を形成せしめ直南下させたい。この新水路は電車軌道を南に越し人家外れから東南方へと適当なカーブをとり、農業試験場附近に誘下して現新川に連結するまでのことだ。この両岸は美化処理して管理を厳にし、悪化の愚を再現させてはならない。またいま町内カーブから農試までの旧流埋立により、いまの河岸の片町は両側町に形成される。なお町内カーブから分水南下していた水路の処理は追って述べよう。

■野田水路と新川との格闘解消には、先ず野田水路は町内潜入部からやや下げ匀配とし、高知市の暗渠排水式に西導して電車軌道南面に出で、ここで改造新川の底を抜け、町内カーブで取水口を失った南下水路頭に連結したい。

（未完）

……住宅金融公庫……
申込から設計・施工・登記までご報次第参上します
中村建築士事務所
南国市小籠五七
南国市大埇
連絡事務所　吉本肥料店内TEL361

養鶏・養豚・酪農
飼料はニツコー完全飼料
一月～四月初雛用予約割引
県下特約店　**吉本飼料店**
大埇　TEL 361　有線 ⑬～3
ゲージ、給餌器、給水器

ヒヨコ
春ビナ予約受付中
高級　白レダ　正交配ロックホーン
三元交配ネックホーン・ゴールデンネック
後免西町　TEL267
嶺南ふ化場

毛糸
トーア、スキー
ローレル、カネボー
後免西町　**富士屋百貨店**
TEL248